

は し が き

この集録は、本年度における「理科定期研修」の研究成果をまとめたものであります。

「理科定期研修」は、すでにご承知のように、当教育センターが実施している研修事業の一環であり、研修員と所員が一体となって行なう共同研究であります。すなわち、この研修は小・中・高校における「新しい理科教育の実践」を主題として、当教育センターで行なう研修・研究および勤務校における授業研究からなっています。これらの研究をとおして、指導要領にもられた教材を具体的に展開する際の問題点をさぐり、それを実践的に追求していくのが、この研修のねらいであります。

共同研究としての「理科定期研修」を始めてから早くも三年を経過し、本年度もまた多数の応募者から選ばれた、小・中・高校36名の研修員を迎えて実施されました。なお、今回より研究集録名を従来の「研修員研究集録」から「実践研究集録」と改め、名実ともに所員と研修員のチーム・ワークによる研究成果を発表できるようにしました。

研究を進めるにあたっては、それぞれのテーマに応じて、「基本的科学概念をどのように育てていくか」、「探究の過程をつうじて科学の方法を身につけさせるためには、どのような指導が必要か」、「思考場面での生徒の理解のしかたをさぐり、それをどのように学習指導に生かしていくか」などの視点に立って実施しました。したがって、ここに収められた中・高校関係の6編の論文は、いずれも今後の理科の授業や教材研究に直接または間接に役だつものと信じます。また、これからの県および地区理科教育センターの講習にも、できるだけ活用していきたいと考えています。

なお、これらの研究は紙面の都合で、その意とするところをじゅうぶんに尽くし得ないものも多く、また、内容について至らない点も多々あることと思います。率直なご批判とご指導を賜わることができれば幸いです。

おわりに、校務多忙にもかかわらずこの研修に参加され、終始熱心に研さんされた研修員の方々の努力と熱意に対して、深い敬意を表したいと思います。さらに、研修員所属の校長先生はじめ諸先生方からいただいたご支援とご協力に対し、心からお礼を申し上げます。

昭和46年1月20日

新潟県立教育センター所長 大 黒 山 平